

水資源危機のために

鹿児島修学館中学校

三年

堀添ほりぞえ

謡ほる美み

私は一昨年、イギリスへホームステイに行き、とても衝撃をうけました。それは、同じ先進国であるイギリスの人々の水に対する考え方が、あまりにも私と違ったからです。

日本では毎日温かいお風呂に入るのが当たり前ですが、イギリスではそうではありませんでした。イギリスでお風呂に入るといふことは、すごく贅沢なことらしく、シャワーを少し出しっぱなしにしているだけでも強く注意をされました。また、食器を洗う時は、流水をほとんど使用せず洗剤をつけて水で流さずタオルでそのまま洗剤と汚れをふきとっていました。なぜだろうと不思議に思いましたが、英語力の乏しい私は、その理由を直接聞くことが出来ませんでした。そこで、帰国してからイギリスの水事情について調べてみました。

イギリスの水事情を考える上で、大切な問

題が三つあります。それは、「少ない降水量」「人口の増加」「温暖化による気候変動」です。イギリスは将来、これらの原因によって、貯水地に、人口増に耐えられるだけの水がなくなり、河川の四分の一が干上がるだろうと予想されています。そこで、イギリスの人々は限りある水資源を大切に、最低限の使用量で生活する工夫をしていたのだと思います。

イギリスの水事情を調べ、さらに世界の水事情にも目を向けてみると、イギリス以上に大変なことになっていることが分かりました。

ユニセフによると、世界人口の半数以上が水道を使えるようになった今なお、6億6300万人もの人々が安心して飲める水が身近になく、池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいます。そして私が一番驚いたことは、アフリカ諸国だけでも、330万人を超える子ども達が水の重さに耐えな

がら遠い道のりを歩き、水汲みに行かなくてはならないという現実です。一日のほとんどを水汲みに費やすため、学校に通うことのできない子ども達がたくさんいる悲しい事実にとっても悲しい気持ちになりました。

このように、広い視野で世界を見てみると、世界には水不足で困っている人々がたくさんいることを痛感しました。そして、これを機会に、自分自身に出来ることは何かと考えさせられました。

まず、身近で簡単にできることとして、トイレの水は二回流さない、庭の花にあげる水を雨水にする、お風呂の残りの水を洗濯に使うなどがあります。そして、いま自分出来ることの中で一番大切だと思うことは、自分の周りの人達に、世界の水事情の実情を伝え、日本も将来そうなる可能性を考えて水を大切に扱う生活をみんなで行っていくことです。一人から二人、二人から三人と、少しずつたくさんの人達が限りある水の大切さを

意識していけば、きっと世界の水事情も良い方向に向かっていくと思います。

世界的な水不足防止のためどのような活動が行われているかなどを、まず調べてみることから始め、興味を持つこと。今後、世界中の人々が安全な水を飲める日の為に、一人でも多くの人に水資源についての興味を持ってもらえるよう伝えていきたいと思えます。